

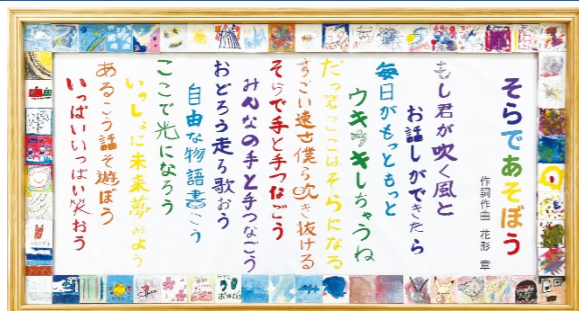
特別支援



10月13日(木)・14日(金)には「きりの子まつり」が、10月15日(土)には「山梨大学教育学部 附属特別支援学校 創立50周年記念式典」が行われました。

創立50周年記念式典

記念品



記念制作



記念誌

附属特別支援学校は1973年(昭和48年)に開校し、この50年間多くの卒業生を輩出し、障害児教育の発展に寄与してきました。式では、井坂校長の式典開催に際しての御礼と挨拶の後、島田学長より「次の50年に向かって益々の発展と充実することを期待している」と御祝辞をいただきました。式典には、大学関係者をはじめ、県教育委員会関係者や県立支援学校長など35名の来賓が参加されました。当日は、高等部の生徒による「武田きりの子太鼓」の演奏や小・中学部の児童生徒からのメッセージ発表(校内別教室からオンラインでの参加)、50周年を振り返るスライド上映、記念制作の紹介(仲よし会の歌の額)などを行い、心温まる式典となりました。



小学部



中学部



高等部



小学部:劇「しりとりのおうさま」ことば・からだ・おと、いろいろなしりとりでたいけつしました!!

きりの子まつり



中学部:劇「♪にじいろジェット、ぼうけんの旅～オズの魔法使い～」では、みんなでチャレンジの「なかま旅」を成功させました!



高等部:「武田きりの子太鼓～つなぐ つなげる みんなの希望～」高等部全員の熱い想いを太鼓の音色に乗せて届けました!

仲よし会より

みんなで決めた今年のきりの子まつりのテーマは「みんなでつなぐカラフルスマイルきりの子まつり」でした。また50周年記念式典でも心を一つにすることができました。

2つの行事とも、全校のみんなで力を合わせて思い出に残る行事にすることができました。これからも全校の児童生徒と楽しい学校にできるよう頑張っていきたいと思っております。

仲よし会 会長 山口 良祐



きりの華2

2022年12月号
山梨大学教育学部附属
幼稚園・小学校
中学校・特別支援学校

今回は、山梨大学教育学部附属の4校園(幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校)の研究や行事の様子を中心にお伝えします。コロナ禍ではありますが、最大限の感染対策をとりながら、取り組みの成果を十分にらせるよう前向きに学校生活を送っています。

幼稚園

本園では、「子どもの声から始まる保育」について、継続して実践研究を積み重ねてきています。『子どもの声』とは、実際に子どもが発する言葉だけではなく、子どもの表情や仕草などから読み取れる『声』も含んでいます。今回は、子どもの願いや思いを受け止めたくうえで、教師の願いを含んで展開していく本園の保育の一端をご紹介します。

スポーツフェスティバル2022(10月8日)

本園では、コロナ禍における『運動会』について検討を進めるなかで、子どもたちが練習を重ねてダンスや競技を披露するようなこれまでの『運動会』を見直し、親子で身体を動かすことを楽しむ会にしたいと考えてきました。そんなある日、子どもからこんな『声』が聞こえてきたのです。



『運動会のアーチ作り』は、年長児の担当です。今年はどんなふうにしようかと昨年の写真を見ながら話をしていると、Aくんが「お祭りみたい!」と言い始め、つられて「ワッショイ、ワッショイ」と踊り出した子どももいました。担任の「『うんどうかい』って書いてあるよ」という言葉に子どもたちはそれぞれに話し始めました。Bくん「『スポーツ会』でいいじゃん。ぼくは、野球とか好きだから」、Cくん「走るのとか?」、Dちゃん「よーいどんと鉄棒が好

き!」、Eくん「ドッジボールやサッカーやりたい!」、Fちゃん「走ったりするのかな?」、Gちゃん「走り運動会?」。担任も驚くような、なかなか、斬新な名前が挙がってきました。

別の場所で、踊りを楽しんでいる子どもたちは、「おどりふいすばる(フェスティバル?)」というポスターを作っていました。その表情からは、『お祭り』らしい楽しそうな雰囲気が感じられました。



「お祭りみたい」な「スポーツ会」、「おどりふいすばる」から生まれた『スポーツフェスティバル』!

これから先、この新たな行事に、その時々の子どもの思いが重ねられていくこととなります。「今まで通りにできない」と捉えるのではなく、「今までよりもっと面白くしたい」と進んでいく子ども達に頼もしさを感じる日々です。

12月3日(土)、3年ぶりに「公開研究会」を実施し、白梅学園大学名誉教授 無藤隆先生を講師にお招きし、県内の幼小に関わる教員が集い幼小接続について学びました。



あおぎい運動会を開催しました！

2022.10.1 開催
3年ぶりです！！

輝く虹のように みんなの心を一つに合わせよう！ ～カラフル運動会 in 2022～



1年生 創作ダンス
PON + PON + PON!



2年生 縄跳び表現
なわ LOVE



3年生 民舞 火炎太鼓 The・附属
～届け！ぼくたちのパワー～



4年生 フラッグ表現 全力
「附」ラッグ season 2



5年生 魅せろ！あおぎりソーラン！
～99人の絆で～



6年生 組み立て表現
その時へ・・・

あおぎい講座

～大学の先生が5・6年生に向けて、専門分野を

わかりやすく講義してくださいました！～

10月22日(土)に、大学と連携して土曜参観の一環として行いました。

古家貴雄教育学部長「英語ってどんな言葉だろう？—日本語との比較を通して考える—」、地学分野の福地龍郎前校長先生「立体視で活断層を見つけよう！」、生物分野の宮崎淳一校長先生「深海生物の深化と起源」、心理分野の小野田亮介先生「やる気の心理学—やる気はなぜでないのか？—」、医学分野の大塚稔久先生「記憶のしくみ～覚えた

い？忘れたい？～」、医学分野の河口賀彦先生「手術はロボットの時代?!」工学分野の丹沢勉先生

「ロボットの話—私たちの未来とロボット—」、保護者の皆様もオンラインで参加し、大変有意義な時間となりました。



児童会より



11月26日(土)に、あおぎり祭りが行われました。コロナウィルス感染症対策をしながら、たてわり班でお店を出し、工夫しながら全校みんなが楽しめる活動となりました。

当日は、PTAの皆様がバザーをしたり、テイクアウト専門の「あおぎり喫茶」を出したり、児童や先生方、保護者の皆様の作品展を行ったりして、多くの皆様楽しんでもらえた一日となりました。来年度は、地域の皆様にも参加していただきたいと思ひます。



マナちゃん

若桐のつどい (修学旅行) 3年生 7月19～21日実施



大江能楽堂で能を観賞

19日の朝は曇り空で時々小雨が舞うあいにくの天気でした。3年生は元気に集合し、6時30分に出発しました。昼食時は土砂降りでしたが、見学のときには雨も上がり、クラスの集合写真の撮影もできました。2日目はグループ別のタクシー見学でした。大きなトラブルもなく、元気に見学地を回り、夜は能楽鑑賞を行いました。最終日は学級ごとの見学です。それぞれの学級に分かれて見学し、予定どおりに帰路



法隆寺を参拝中

につきました。バスは18時40分に学校に到着し、解団式をして解散しました。感染症が心配されましたが、全員の協力により、成功裏に終わることができました。

青空の下、全校で創り上げた桐龍祭

9月9日(金)・10日(土)の2日間にわたり、第52回桐龍祭が行われました。一昨年・昨年とコロナ禍での学園祭について、試行錯誤しながら実施方法を模索してきました。今年度は、その実績を生かして、できるだけ以前の形に戻すことを心掛けました。まだまだ同じようにはできませんが、3年生や生徒会役員の「附属中学校の伝統を途切れさせたくない」という強い思いがあったからです。特に、誰一人として在校生が経験していない「全校合唱」を復活させたいとの思いから、生徒会役員が中心となって、練習を進め、校庭での実施ではありましたが、全校合唱を復活することができました。今年度の桐龍祭は、来年度の桐龍祭に向けての明確な方向性を示す素晴らしい桐龍祭となりました。



青空に響く全校の歌声

歌声をホールに響かせた合唱のつどい

附属中学校では、例年、県民文化ホールで合唱コンクールを行ってきました。しかし、コロナ禍で、一昨年はブロックごとの合唱発表会、昨年度は学園祭文化部門(映像の視聴会)に変更しました。今年度は、会場が葦崎文化ホールであったり、練習環境が十分整わなかったりしたことを考慮してコンクール形式では行いませんでしたが、全校生徒が一堂に会し、3年ぶりの合唱を発表することができました。桐龍祭のときから、生徒会本部を中心に感染症対策も考慮した練習計画を立案し、伝統の全校合唱を取り戻す第一歩を踏み出しました。3年生も経験したことのない全校合唱でしたので、取組自体わからないことも多く大変でした。しかし、校長先生からも、全校生徒が歌う校歌を初めて聞き感動したこと、附属中学校の合唱の再始動として申し分のない合唱だったことを評価していただきました。特に3年生は「有終の美を飾るんだという義務教育を終える決意」と「附属中を託すぞという先輩から後輩への思い」が感じられる素晴らしい合唱でした。来年度の合唱が楽しみです。



全校合唱「時を越えて」